

## 令和3年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

生徒個々の「生きる力」「進路を切り開く力」の伸長を図る地域と密接に連携した教育活動により、地域社会に貢献できる能力と豊かな人間性を持つ人材を育成し、地域に信頼される高校をめざす。

- 1 生徒が積極的に参加・活動する「わかる授業」を推進し、「スモールステップで学びを支援」し、「確かな学力」を育成する。
- 2 キャリア教育の充実に努めると共に、自立支援コース並びに専門コース等において特色ある教育活動を展開し、主体的に進路実現できる生徒を育成する。
- 3 教育活動全体を通じて、規範意識、人権意識の向上を図るとともに、地域との交流・連携を深め、安全・安心な学校としての信頼感を高めていく。

## 2 中期的目標

## 1 確かな学力の育成と授業改善

- (1) 生徒の参加・活動量の多い「わかる授業」をめざした授業改善に取り組み、自ら学ぶ生徒を育てる。
  - ア アクティブ・ラーニングを取り入れ、生徒の授業参加と活動量を積極的に増加させ、学びを深める。
  - イ 教員相互の授業見学、他校や中学校の授業見学、授業アンケートを効果的に活用し、授業改善に取り組む。
  - ウ 国際交流事業、英語検定・GTEC等を活用し、国際理解教育を推進する。
  - エ 「阿武野プロジェクト(あぶプロ)～学力充実プロジェクト委員会」を中心として、組織的な授業改善を行い、生徒の学力の充実に努める。さらに新学習指導要領をふまえたカリキュラムマネジメントに取り組む。
- ※ 授業アンケートにおける興味関心、知識技能に係る生徒の満足度(H30:79%、R1:80%、R2:88%)を上昇させ、令和5年度には90%以上にする。
- ※ 教育産業における学力生活実態調査において、学習習慣上昇者の割合(R1:11%、R2:30%)を令和5年度には40%に上昇させる。
- ※ ICTを活用した授業(H30:4500時間、R1:6653時間、R2:6691時間)を増加させ、令和5年度も5000時間以上を維持する。

## (2) 学習環境の整備、授業規律の確立を図る。

ア 学習環境整備、授業準備、授業規律の指導を徹底し、授業に集中できる環境を整える。

## 2 進路意識の高揚とコース制の充実

- (1) 進路指導部と学年が協力して、系統的キャリア教育の充実に努め、主体的に進路を選択し実現できる生徒を育てる。
  - ア 総合的な探究の時間(ライフ・プランニング=LP)、LHR(ロングホームルーム)において、系統的・継続的なキャリア教育の充実に努める。
- ※ 進路決定率(H30:93%、R1:94%、R2:96%)を上昇させる。
- ※ 学校紹介就職内定率は100%(H30:100%、R1:100%、R2:100%)を維持する。
- (2) 「自立支援コース」「スポーツ専門コース」「福祉・保育専門コース」をはじめ、すべての教育課程において、進路実現につながる特色ある教育活動を展開し、望ましい勤労観・職業観、基礎的・汎用的能力を養う。
  - ア コース毎に、生徒の実態や保護者のニーズに応じた教育内容の充実に努め、進路実現に導く。
  - イ コースの特色に応じて多様な教育活動を展開し、地域との交流・連携を深める。

## 3 安全で安心な学校生活の中での規範意識と自尊感情の育成

- (1) すべての教育活動を通じて安全で安心な学校を作り上げ、規範意識、自尊感情、人権意識の高揚に努める。
  - ア 規範意識の高揚、基本的生活習慣の確立を図るため、登校時の校門指導を強化し、一貫した生徒指導を行う。
  - イ LP、LHRにおいて、アサーション・トレーニングやメディアリテラシーの取組を含めた人権学習等を計画的に実施し、安全で安心な学校づくり、人権意識の高揚を図る。
  - ウ インクルーシブ教育の理念に基づいた「ともに学び、ともに育つ」教育、並びに地域の学校、諸団体との交流・連携を推進し、社会貢献を体験することで、生徒の規範意識、自尊感情、人権意識を育てる。
  - エ 防災教育、交通安全教育を計画的に継続して行う。
- ※ 遅刻について、前年度比5%の減少を図る。
- (2) 生徒の自主的活動を支援し自尊感情を育成するとともに、自らを律し他人を思いやる心を育てる。その際には、生徒を「褒めて育てる」「スモールステップで育てる」を意識する。
  - ア 学校行事、生徒会活動の活性化を図る。
  - イ 部活動の活性化を図る。
  - ウ 一人ひとりの教育的ニーズに応じた適切な支援の充実に努める。
- ※ 部活動加入率(H30:51%、R1:50%、R2:50%)を上昇させ、令和5年度には55%以上にする。

## 4 地域の信頼感を高め、学校教育活動を活性化する学校力の向上

- (1) 広報活動を推進する体制を強化し、学校教育活動を活性化する。
  - ア 中学校訪問、中高連絡会、学校説明会等を計画的、組織的に実施し、地域の信頼感を高める。
  - イ 学校教育活動全般について、適切な情報発信に努め、保護者、地域との信頼関係を高める。
- (2) 組織的、継続的に学校力の向上を図る。

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和 年 月実施分]	学校運営協議会からの意見

## 3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標 (R2年度値)	自己評価
1 確かな学力の育成と授業改善	<p>(1) 生徒の参加・活動量の多い「わかる授業」をめざした授業改善に取り組み、自ら学ぶ生徒を育てる。</p> <p>(2) 学習環境の整備、授業規律の確立を図る。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・アクティブ・ラーニング (AL)、ICTを活用した授業づくりを推進し、生徒の主体的・協働的な授業参加と活動量の増加を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各授業の目標、ポイントを明示するとともに、授業の振り返りを行う。</li> <li>課題・宿題による家庭学習の習慣づけ、確認を行い、授業進行に活用する。</li> </ul> <p>イ・教員相互の授業見学の活性化と共に、授業アンケート結果を活用し、授業改善を図る。</p> <p>ウ・可能な範囲での国際交流事業や英検受検 GTEC を通じて英語力と国際感覚を養う。特に昨年度から導入したスタディサプリを活用し、家庭学習の習慣化と英語力の向上に取り組む。</p> <p>エ・あぶプロの活動を通し、教材開発、研究授業、研究協議、ICT活用及び AL 推進のための校内研修を実施すると共に、新学習指導要領に基づくカリキュラムを完成させ、観点別評価の取り組みを進める。</p> <p>(2)</p> <p>ア・学習環境整備、授業準備、授業規律について、各学年団での指導を一貫して行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>担当分掌を中心に全教職員で校内美化を推進。</li> </ul>	<p>(1) ア イ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>興味関心、知識技能に係る授業アンケート満足度を前年度 (88%) より向上させる。</li> <li>教育産業における学力生活実態調査において、学習習慣上昇者の割合を前年度 (30%) より向上させる。</li> <li>ICT を使用した授業 5000 時間以上を維持。[6691 時間]</li> </ul> <p>ウ・可能な範囲で国際交流事業の活性化。</p> <p>エ・新カリキュラムの完成と観点別評価に取り組む。</p> <p>(2)</p> <p>ア・学校教育自己診断 (生徒) における「クラス清掃をきちんとする」の肯定的評価を前年度 (72%) より向上させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>同「私語が少なくしっかり授業を聞く」の肯定的評価を前年度 (61%) より向上させる。</li> </ul>	
2 進路意識の高揚とコース制の充実	<p>(1) 進路指導部と学年が協力して、系統的キャリア教育の充実を図り、主体的に進路を選択し実現できる生徒を育てる。</p> <p>(2) 各コースをはじめすべての教育課程において、進路実現につながる特色ある教育活動を展開し、望ましい勤労観・職業観、基礎的・汎用的能力を養う。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・3年間で、LP、LHR における系統的・継続的なキャリア教育が充実するよう、進路指導部・学年・人権教育担当分掌が協議し、より良いキャリア教育を構築する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>進路指導部・教務部・学年団が協力して、補習・講習を実施し、進路実現に導く。</li> <li>1年次は自尊感情の育成とともに、LP「素敵な大人インタビュー」等を通して将来の職業生活についての意識を高める。全員の3者面談を実施し、進路決定や職業を意識したコース選択、科目選択を徹底する。</li> <li>2年次は進路体験学習等のキャリア教育、個人面談により、適切な科目選択、卒業後の進路目標の確定に導く。</li> <li>3年次は進路別対策講座を実施するとともに、担任・進路によるきめ細かな進路相談を行い、進路指導部アンケートの「進路満足度」の肯定的評価の割合 100%をめざす。</li> </ul> <p>(2)</p> <p>ア・専門コースや選択科目が生徒の進路に結びつくよう、教育内容の充実を図る。</p> <p>イ・地域諸団体との交流・連携を推進し、進路意識の高揚を図る。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・同「進路や職業について学ぶ機会がある」の肯定的評価を前年度 (92%) より向上させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>2年生の進路目標確定 95%以上。</li> <li>卒業時進路決定率を前年度 (96%) より向上させる。</li> <li>学校紹介就職内定率 100%。</li> <li>進路指導部アンケートの「進路満足度」の肯定的評価の割合 100%をめざす。</li> </ul> <p>(2)</p> <p>ア・同「専門コースの授業に満足」の肯定的評価を前年度 (83%) より向上させる。</p> <p>イ・同「地域の方から学ぶ機会がある」の肯定的評価を前年度 (81%) より向上させる。</p>	
3 安全で安心な学校生活の中での規範意識と自尊感情の育成	<p>(1) すべての教育活動を通じて安全で安心な学校を作り上げ、規範意識、自尊感情、人権意識の高揚に努める。</p> <p>(2) 生徒の自主的活動を支援し自尊感情を育成すると共に、自らを律し他人を思いやる心を育てる。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・全教職員が協力して登校時校門指導を行い、遅刻、頭髪、制服の指導を強化するとともに、挨拶のできる生徒を育てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生徒一人ひとりが「阿武野高生の代表」という自覚を持ち、責任ある行動、言葉遣いができるよう一貫した生徒指導を行う。</li> <li>カウンセリングマインドを持った生徒指導を推進する。</li> </ul> <p>イ・1年次に地域交流による「障がい理解学習」を行う等、LP、LHR でアサーション・トレーニングやメディアリテラシーの取組を含めた人権学習等を計画的に実施し、安全で安心な学校づくり、人権意識の高揚を図る。</p> <p>ウ・2年次に社会貢献活動「あぶねっと」を行う等地域交流を推進し、学校教育全般を通じて生徒の規範意識、自尊感情、人権意識を育てる。</p> <p>エ・防災教育を計画的に行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自転車運転ルールの順守、マナーの向上について、交通安全テスト等を活用し、定期的な注意喚起を行う。</li> </ul> <p>(2)</p> <p>ア・学校行事、生徒会活動の活性化を図る。</p> <p>イ・部活動の活性化を図る。</p> <p>ウ・各学年、相談室委員会、配慮特別委員会が情報を共有し、SC(スクールカウンセラー)、SSW(スクールソーシャルワーカー)、関係機関との連携を推進して、一人ひとりの教育的ニーズに応じた支援体制を維持する。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・年間延べ遅刻数 3000 人以下。(前年度 3048 人)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>同(教職員)「カウンセリングマインドのある生徒指導の実施」の肯定的評価を前年度 (89%) より向上させる。</li> </ul> <p>イウ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>同(生徒)「人権の大切さを学ぶ機会がある」の肯定的評価を前年度 (89%) より向上させる。</li> <li>同「学校へ行くのが楽しい」の肯定的評価を前年度 (74%) より向上させる。</li> </ul> <p>エ・防災教育、交通安全教育の各学期実施。交通安全テストの全員合格。</p> <p>(2)</p> <p>ア・同「学校行事満足度」の肯定的評価を前年度 (80%) より向上させる。</p> <p>イ・部活動加入率を前年度 (50%) より向上させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生徒会や部活動による地域交流を一昨年度 (18 回) より増やす。</li> </ul> <p>ウ・「個別の教育支援計画」の作成と適切な支援。</p>	

<p>4 地域の信頼感を高め、学校力の向上 活性化 する 学校 教育 活動 を</p>	<p>(1) 広報活動を推進する体制を強化し、学校教育活動を活性化する。</p> <p>(2) 組織的、継続的に学校力の向上を図る。</p>	<p>(1) ア・中学校訪問、中高連絡会、学校説明会等を計画的、組織的に実施する。 イ・学校紹介スライド、3年間の学び・みえるプラン、広報誌(ABULIFE)を作成すると共に、校内のデジタルサイネージを推進し、教育活動の効果的な情報発信に努める。 ・文書、保護者メール、ホームページ等を使って保護者との連絡をより密接に行い、学校との信頼関係を向上させる。</p> <p>(2) ・日常的な OJT の推進に努め、経験年数の少ない教職員の育成体制の充実を図る。 ・府教育センターや各研究団体等の研修を活用し、伝達研修の充実を図る。 ・地域の府立学校とも連携し、多様な課題に対応するための職員研修を計画的に実施する。 ・OJT の充実や ICT の導入によって業務の効率化を進め、ストレスチェック制度の有効活用も行き、教職員の負担感軽減を図る。</p>	<p>(1) ア・学校説明会等の計画的、組織的实施 6 回以上。 イ・HP をより見やすく改善する。 ・同(保護者)「教育情報提供満足度」の肯定的評価を前年度(78%)より向上させる。</p> <p>(2) ・伝達研修を含む職員研修の実施 12 回以上。 ・同(教職員)「経験年数の少ない教職員をフォローする体制」の肯定的評価を前年度(81%)より向上させる。 ・ストレスチェック結果の総合健康リスクが事業場全体より下位。</p>	
---	--	--	---	--